



2007.12.14  
第134号

発行 村議会 支会  
編集 町議会 支会  
編集 市協議会 支会  
編集 県教育委員会 支会  
編集 福島県教育委員会 支会  
編集 福島県教育委員会 支会

編集協力 小・中学校長会

# よく遊びよく学ぶあいづねのこと



会津教育事務所管内三支会  
連絡会長 井上 禮子

先生方には、会津教育振興のため、日夜、専心御努力いただき感謝に堪えません。  
教育に素人の私ではありますが、日頃考えておりますことの一端を申し上げます。  
目や耳を蔽う、悲惨な事件が日本では連日起こっています。貧しくとも温和であった日本人が、なぜ醜くなっていくのでしょうか。  
経済効果優先の大人の快適さだけを求めた戦後の日本は、一貫して子どもたちの遊び場を奪ってきました。このことは、子どもの教育に重要な意味を持っています。外でみんなで駆け回っ

て遊んでいた時には、日本の子どもたちの心は豊かでした。しかし、屋内で孤立型遊び（テレビゲーム、パソコン等命のないもの）に熱中するようになってから、日本の子どもたちの心には影がさし始めました。自然や友だち等、生命のある相手と共に汗まみれになって遊べる「生身の時間」を取り戻してやりたいたいものです。自然の中の遊びを通して、自然を畏れ不変の価値を感じとる得難い体験は、子どもの成長には大きな刺激になると思います。  
「かつて私たちは誰でも子どもであった。しかし、この事を

忘れずにいる大人は意外に少ない。」という文言は、私の大変気になっている言葉の一つです。「Aの子どもたちは…」と口癖のように嘆く大人が多いようですが、自分が子どもだった時、どう考えどう行動したか常に思い起こし、子どもの視座から、子どもへの思考で、子どもと接することについて、大人（親も教師も）は、ことさらに真剣でありたいものです。子どもとの向き合いは、自分自身の課題との向き合いでもあります。  
光速的な情報の飛び交いに取り残されてもいるから、子どもたちと「ゆっくりに遊んだり、打ち解けて語り合ったりしている「家庭」「学校」「地域」づくりが私の願いです。  
衛星「かくや」に映った青く美しい地球を大切に、子どもたちが「大地」をしっかりと踏みしめ、より遅く、より個人的に生きるため、二十一世紀は正に拓かれていると信じています。

## 管理課より 平成十九年度の管理訪問を終えて

管理訪問Ⅰ該当校（小学校二十六校、中学校十三校）管理訪問Ⅱ該当校（小学校十三校、中学校十校）において、教職員による不祥事防止や学校事故防止、学力向上への重点的な取組みが数多く見られました。今後、さらに学校での取組みが実効あるものとなるよう、特に、次の事項について努力願います。

### 学校事故防止

○ 日常の巡視・点検等の徹底を図り、施錠、火気管理、可燃物撤去等を完全に行い、瑕疵による学校事故（特に学校火災）の絶無を期する。  
また、個人情報等の管理については、現状を再確認し、事故防止を図る。

### 学力向上策

○ 学年学級児童生徒一人一人の学力の実態をもとに立てられた諸方策について、児童生徒の変容をもとに検証し、具体的な改善を図る。  
○ 校内服務倫理委員会の内容・方法等を十分に検討し、より教職員一

### 教職員の不祥事防止



指導課より

# 「学校訪問Ⅰ」を終えて

「会津の教育の重点」を指導・助言の柱として、幼稚園11園、小学校25校、中学校12校を訪問させていただきました。各園・各校が課題を的確にとらえ、その解決に向けて特色ある取組みをされていることを直接感じ取ることができました。

以下、学校訪問での様子や各校の自己点検結果をもとに、3つの最重点項目について成果(◎)と課題(●)をまとめました。今後の教育目標具現に向けた取組みへの参考にしてください。

重 点	評 価 項 目	小学校(%)				中学校(%)			
		A	B	C	D	A	B	C	D
確かな学力の向上	「学力の伸び」実感の児童生徒の増加	18	68	13	1	11	51	38	0
	グランドデザインの改善と新機軸取組み	31	66	3	0	27	62	11	0
	家庭学習の習慣化への取組み	31	69	0	0	30	62	8	0
豊かな人間性・社会性の育成	体験活動と関連させた道徳の授業の展開	21	73	6	0	35	60	5	0
	連携を図った集団活動・体験活動の充実	53	46	1	0	57	40	3	0
健康の保持増進と体力向上	自校の運動課題を明確にした授業の実践	21	70	9	0	30	62	8	0
	「食・性に関する指導」の計画的な実施	40	49	11	0	19	70	11	0

(A:達成 B:ほぼ達成 C:取り組んでいるが不十分 D:まだ取り組んでいない)

## 1 「確かな学力」の向上

- ◎ 3つの視点(ねらいの明確化、表現の場の設定、達成状況の把握)を大切に授業が数多く見られた。
- ◎ 学習シラバス等を活用して授業と家庭学習をつなぐ工夫が見られた。

- 子どもの学びを生かした話し合いやまとめの工夫
- 個々の実態に応じた家庭学習の内容・方法の工夫

## 2 豊かな人間性・社会性の育成

- ◎ 自校の課題をとらえ、重点化を図った道徳の授業を実践している学校が増えてきた。
- ◎ 「人とのかかわり」を大切に集団活動・体験活動を取り入れた実践が多く見られた。
- 体験活動と関連させ、自分の問題として価値追求していく道徳の授業の工夫
- 自己有用感や自己肯定感をもたせるための「認め・賞賛する」ことを大切に取組みの工夫

## 3 健康の保持増進と体力の向上

- ◎ 新体力テストの結果から陥没点を洗い出し、「運動身体づくりプログラム」を活用した積極的な取組みが多く見られた。
- ◎ 「食に関する指導」が、地域ぐるみで生活習慣づくりと関連させながら実践されている。
- 自校の課題解決に向けた体育指導の改善
- 指導用教材(県教委)を活用し、学年に応じた計画的・継続的な取組みによる「性に関する指導」

生涯学習課より

# 公民館訪問を終えて

本年度も13市町村の公民館を訪問させていただいた。各公民館関係職員の方々とこれからの公民館の在り方や各種事業の具体的な展開などについて有意義な協議の場を設定していただき、公民館活動のさらなる充実のため、支援に努めてきた。

現在、家庭及び地域の教育力向上は、国及び本県にとって最重要課題の一つである。その課題を受け、今年度より「放課後子どもプラン(放課後子ども教室)推進事業」が実施された。子どもの放課後における諸活動の安心・安全を確保し、豊かな体験活動を通して、子どもの健全育成に資する取組みで、会津域内でも9市町村の学校や公民館等で25教室が開設されている。

その中で、公民館が学校や地域の連携・協力を図った河東公民館の「放課後子ども教室」における取組みの一端を紹介する。

### 放課後子ども教室「学園キッズクラブ」

#### ○ 子どもの自主性を生かしたプログラムづくり

子どもや保護者の要望、活動指導員の願いを込めながら、子どもが主体的に活動できるプログラムづくりに力を入れている。常時登録児童(82名)の9割

近い子どもが参加し、保護者からも好評を得ている。

#### ○ 「河東マナビ人材委員会」との連携・協力

指導者は旧河東町から継続して行われている「河東マナビ人材委員会」の協力により、常にボランティア指導者として、子どもの様々な活動の要求に対応している。

#### ○ 学校との協力体制

河東学園小学校には、「学園キッズクラブ」の他にも同施設内に「放課後子どもクラブ」が併設されている。子どもの活動に応じて、学校側も積極的に各種教室の開放を行っている。

このように「放課後子ども教室推進事業」は、子どもにとって安全で安心して過ごせる居場所づくりを地域ぐるみで行い、地域の活性化(絆づくり)を図るなど、その有意性が認められる。今後さらに教室の拡大設置が求められる。







## 心に残る人々

金山町教育委員会教育長

星 幸 雄

「心に残る人々」の題をいただき、お世話になった方々が次々と浮かんできた。

小学校時代の日校長先生。気が小さく、人の陰に隠れてばかりいる私は、所謂「気になる子」「心配な子」であつたらしい。時折、そんな私を目ざとく見つけ、放課後になると「頼みがあるから校長室に来て。」と声をかけてくださる。いろいろ話をしながら一緒にガラス磨きや床拭きなどをさせ、終わりには「いやあ、きれいになったなあ。」と褒め、「明日も元気で学校に来いよ。」と笑顔で見送ってくださった。今で言うカウンセリングだったのだろう。教員になってからも、転勤

の度にお祝いの言葉に教師としての心構えを一言添えたハガキが赴任する学校に届いていた。晩年目が不自由になってからも、ハガキの文面だけは自筆で書いてくださった。教育者としての「やさしさ」を教えていただいた先生である。

大学の教育実習の時に算数の指導をいただいたS先生。学級の4人の実習生で研究授業者を決め、学級代表だった私は指導のお願いに行ったが、「研究授業者をジャンケンで決めるようなクラスの指導はできない。」と一喝された。何度かお願いに行き、研究授業はどうか終了したが、「やる気のない人は教師になるな。子どもがかわいそうだ。」と言われた言葉は、私の教職38年間を支える言葉となった。その後も「教員は、はじめの5年が勝負だ。」「へき地でも子どもがいるから教師ができるんだ。」などと叱咤激励してくださった。教育者としての「厳しさ」を教えていただいた先生である。

教職を離れたが、教育者としての「やさしさ」と「厳しさ」を教えていただいたお二人である。



## 「後世に伝える歴史と自然」

会津若松市教育委員会

会津若松市の東部に位置する飯盛山、背あぶり山、小田山などの山麓とその周辺は、歴史と自然

の宝庫です。市では、この一帯を「いにしえと夢の森」と名付け、地域の方々と連携し、その活用に取り組んでいます。

「いにしえと夢の森」は4つのエリアから成り立っています。会津の中世から近世にかけての貴重な史跡が散在する小田山公園と子どもの森等からなる「小田山エリア」。白虎隊十九士の墓がある飯盛山から会津藩主松平家墓所（院内御廟）にかけての「いにしえ夢街道エリア」。会津盆地と猪苗代を結ぶ古くからの街道であった「滝沢旧街道エリア」。多くの市民や観光客に親しまれている背あぶり山公園を中心とした「背あぶり山エリア」。



今年度は、こ



の自然に囲まれた歴史の舞台を自分の足で散策する「いにしえと夢の森ウォーク」を開催し、小学生からお年寄りまで多くの方に参加いただきました。実施にあたっては、地域の方々に、「いにしえと夢の森案内人」としてガイドのご協力をいただきました。歴史的背景を聞きながら、数々の史跡を巡ることで、インターネットや本だけでは学べない、本物の体験学習ができました。

今後も、地域の方々と一体となって、この貴重な資源を活用し、より多くの方に歴史と自然を伝えていきたいと考えております。



# 作品と指導

工作

『カボチャとあめ』



会津若松市立第六中学校  
3年 渡部 友理奈

日本の和紙による間接照明文化を学び、生活に安らぎを与える季節感のあるランプシェードを、張り子の技法で制作しました。この作品は、ハロウィーン祭りの楽しいイメージを色和紙で表しました。

指導者 鈴木 智子

習字

『読む』

# 読む

遠藤 佳奈

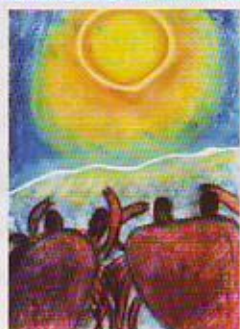
喜多方市立熱塩小学校  
5年 遠藤 佳奈

今までの学習を生かして、文字の組み立て方や字形に注意して書きました。漢字は大きく、平仮名は小さく書くことや「む」の筆遣いに気をつけて、しっかりと書くことができました。

指導者 飯野 桂子

絵

『やまなし』



柳津町立柳津小学校  
6年 長谷川 莉那

シャボン玉やスポンジを使った模様づくり方、濃い画用紙へのコンテ、チョークでの描画など様々な表現技法を体験させ、その中から自分に合った技法を選んで、「やまなし」の場面を表現できるように指導しました。

指導者 平塚 学

## 私の抱負

翁島・三城潟



猪苗代町立  
翁島小学校  
校長 五島喜代子

会津に赴任して



喜多方市立  
第一小学校  
教諭 渡邊清孝

小中交流を通して



会津美里町立  
藤川小学校  
教諭 宗形ひろみ

蒼い空と、紅葉のコントラストが美しい磐梯山麓。子どもたちのサッカーに興ずる声が一層澄みきって心地よく聞こえる。着任して早半年が過ぎ、日々学びの連続である。ここ翁島・三城潟に生まれ育った野口英世博士の少年期に想いを馳せることも多い。博士の遺訓「目的、正直、忍耐」は、現在も地域に息づいている。この遺訓は本校の教育目標に生かされ、十数年前から「かしこい子、すなおな子、たくましい子」と具体化されている。私は、この目標を、新しい時代の心豊かなたくましい児童の育成のために多角的に活用したい。手だてとしては、「児童の確かな学力の向上と創造力の育成」「不易と流行のバランスを見極め、指導力のある教師集団の育成」「幼小中連携学習」である。想いから実践へ。悔いのない一日を積み重ねていきたい。

今春、宮城県との交流人事により喜一小に着任以来、八ヶ月が過ぎようとしています。見知らぬ土地への単身赴任に加え、毎年公開研究会を実施している学校と聞き、不安だらけで新年度を迎えました。「勝手が違う」とはこの状態を言うのだろう、などと独り言をつぶやく日々。宮城県との様々な違いに戸惑いつつ、初任者のつもりで同学年の先生に連日質問攻撃。それが少しずつ血や肉となってきました。いつも遅くまで教材研究に励む熱心な先生方に囲まれ、真摯に子どもたちと向き合う基本姿勢の大切さを改めて痛感しております。いつか宮城に帰ったら胸を張って会津自慢ができるよう、ただひたすら教育実践あるのみと考えております。

十七年ぶりの小学校勤務。中学三年から小学三年の担任へのギャップの大きさとまどいはあったものの、すぐに慣れ、楽しい日々を送っている。小中の発達段階に違いこそあれ、根幹をなすものは変わらないと身をもって感じている。学校は、集団と関わりながら、共に高め合い、自己を向上させていく場である。あいさつの大切さ、ルールを守って生活することの意義、自分の目標とするものを見つけ、それに向かって努力することの重要性を改めて考えさせられる毎日である。藤川小は、今年度で百三十六年の歴史を閉じる。子どもたちには、共に学んだことを忘れずに、母校を想う心をつまでも大切に前進してほしいと願っている。